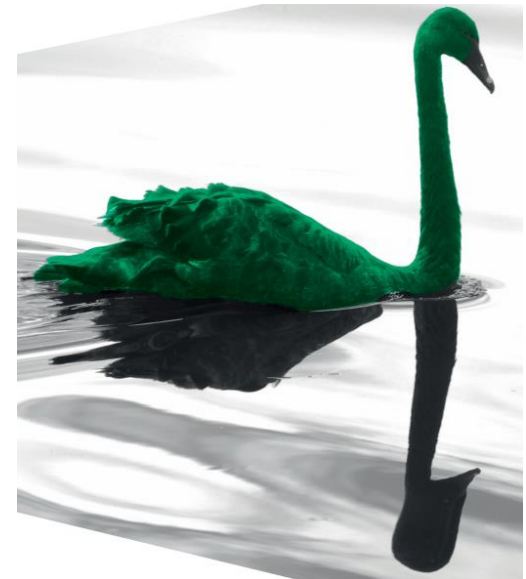


スマートシティとESG市場

フューチャー(株)取締役
フューチャー経済・金融研究所長
山 岡 浩 巳

2021年1月29日



世界の金融とESG・SDGs

■ 金融の民主化

- ・投票という手段だけではない「お金の使い方」への関与
（自分のお金を、「環境」、「持続可能性」など、自分の望む
使い方に振り向けることが可能に
- ・「負の外部性」問題への民主的な対応

■ 投資資金の獲得

- ・環境や持続可能性などへの配慮が、資金獲得にも寄与

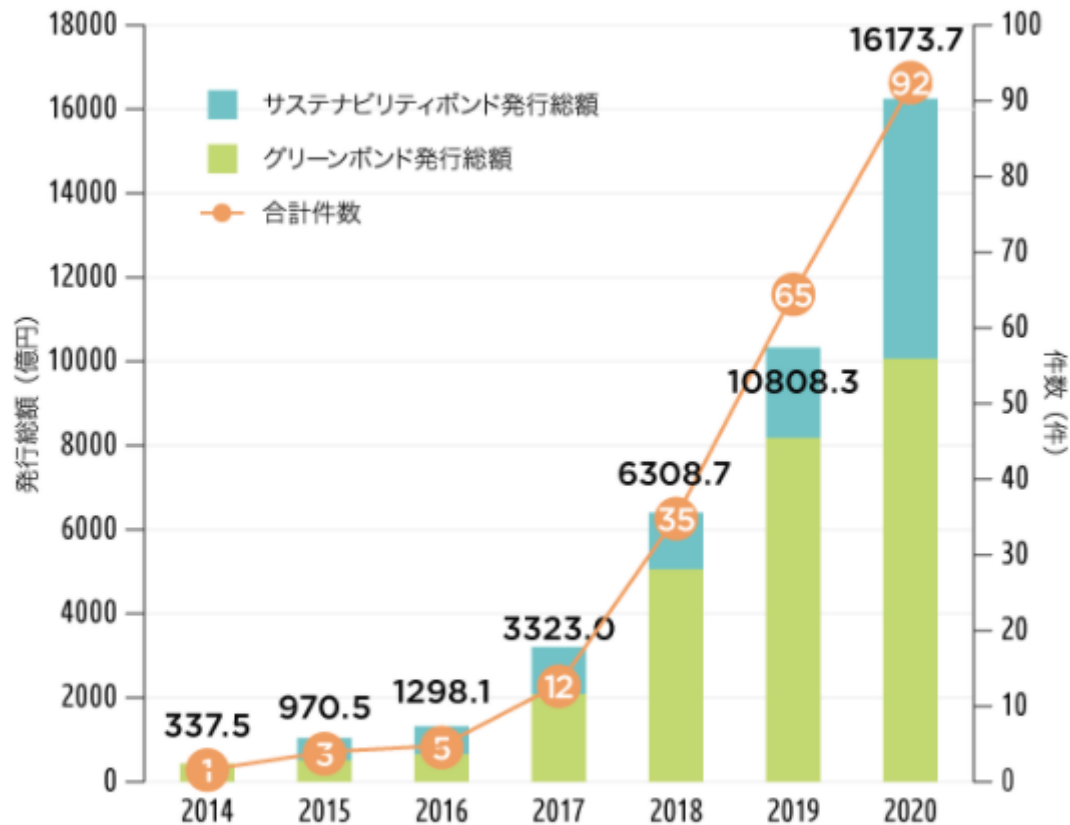
■ 中長期的なリターンの還元

- ・環境や持続可能性等への配慮は、中長期的にリターンも高める

■ 経済・産業競争力のgame changer

日本におけるSDG債の発行額

国内企業等によるグリーンボンドとサステナビリティボンド等の発行実績 —



2020年12月時点

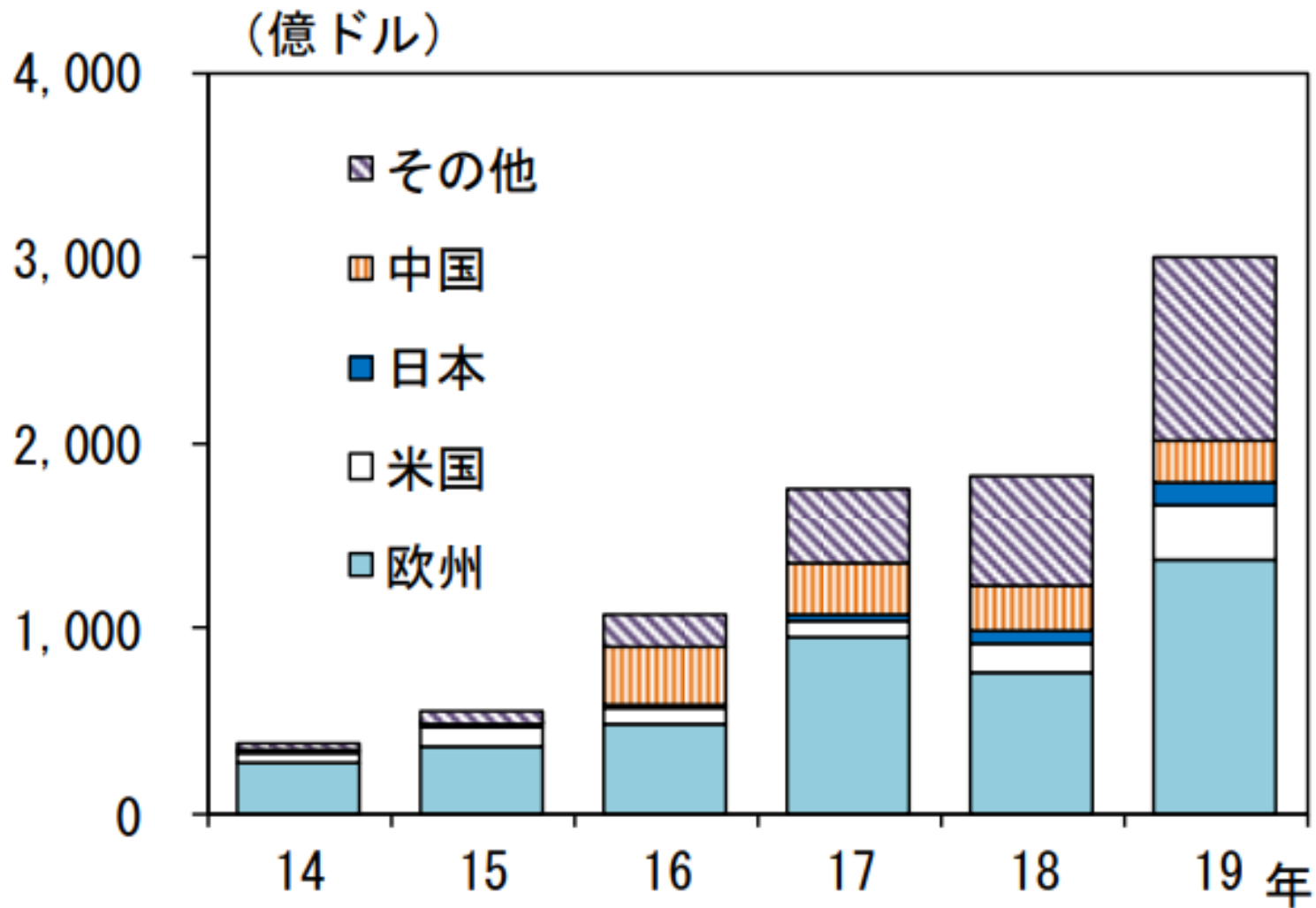
外貨建て発行分については、1米ドル=110円、1ユーロ=135円、1豪ドル=90円にて円換算

各発行体ホームページ等をもとに環境省作成

東京金融センターの課題

- 従来、参入企業の視点は殆どが「資金源として」
 - ・ 「日本には1千数百兆円の個人金融資産があり、多くが現預金。この資金の獲得を通じてフィー等を得たい」というもの
- 東京の環境や持続可能性、スマートシティなどの取り組みを効果的に訴え、世界から投資資金を呼び込むことを考えなければならない
 - ⇒ 「東京への投資はESG・SDGsとも整合的」という認識を醸成できるか？
 - ⇒ 東京で活動する企業の行動を効果的に誘導できるか？

SDG債の発行額

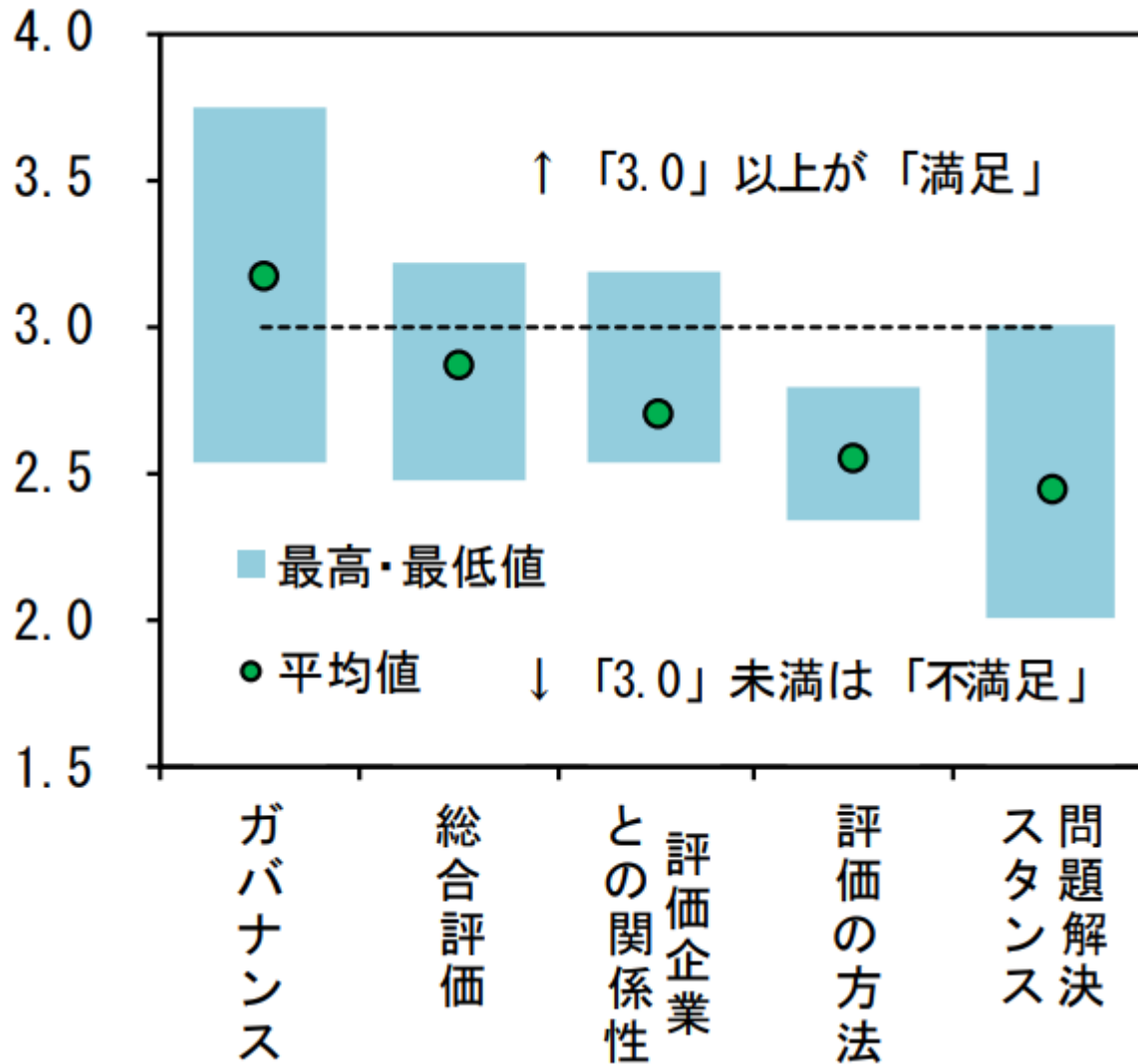


(出所) Bloomberg

東京都はステークホルダー

- 自然災害(気候災害など)が生じれば、東京都などの行政当局は、さまざまな財政出動などを迫られる
 - ・ 究極的には、市民(東京都民など)の負担
- 災害などのリスクを高めながらリターンを獲得しようとする活動に、行政は強い関心を持たざるを得ない
 - ・ 都民全体の損失を最小化し、効用を高めていく
- 海外では、自治体がグリーンボンドの有力な発行体となっている事例も

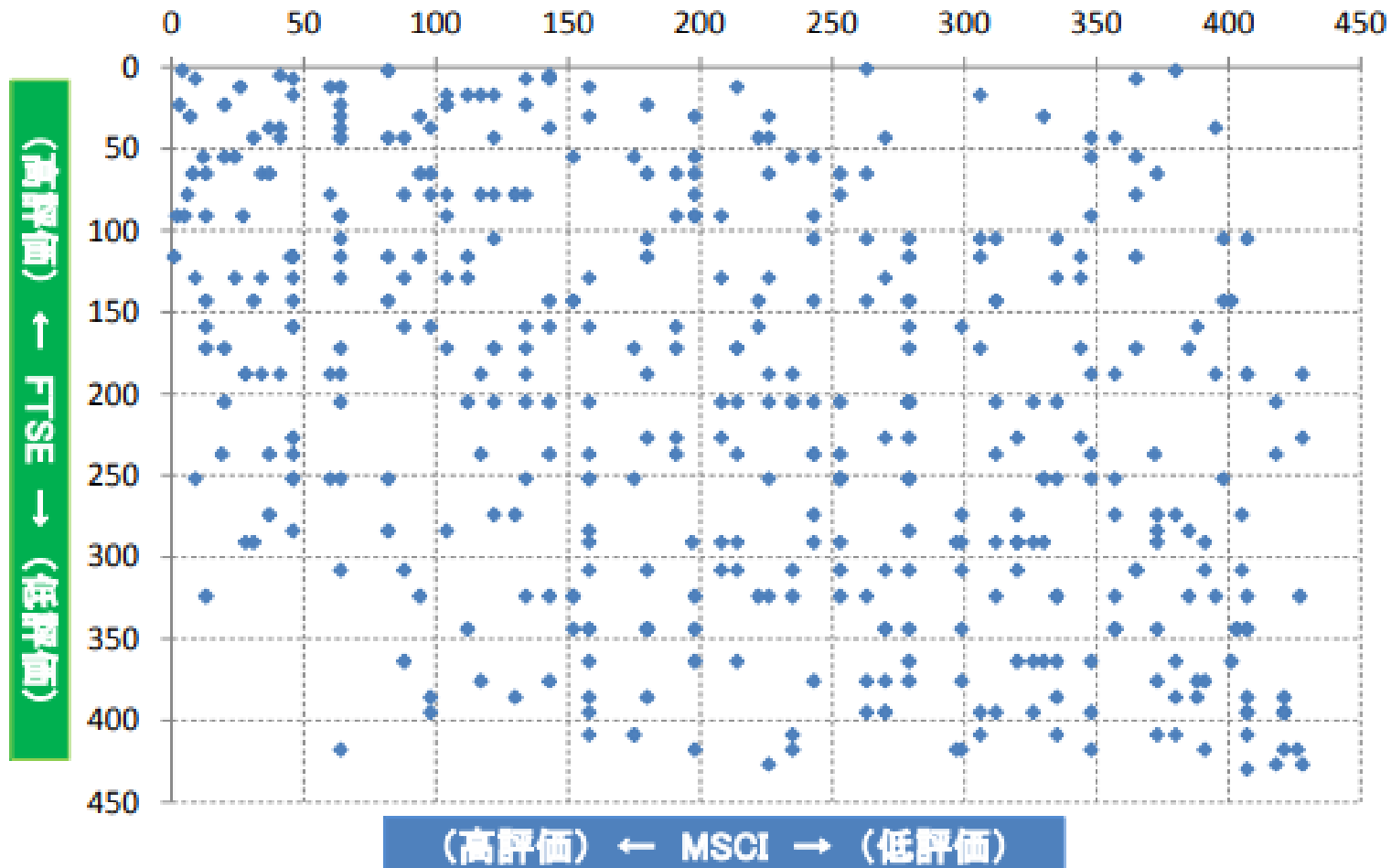
ESG格付機関への企業の評価



(注) 8 つの ESG 格付機関 (EcoVadis, CDP, FTSE, MSCI, Oekom Research, RobecoSam, Sustainalytics, Vigeo Eiris) に対する評価について、フランスを代表する企業 120 社を対象に実施したアンケート調査。上記 5 つの項目について、大変満足 (4 点)、満足 (3 点)、不満足 (2 点)、大変不満足 (1 点) で評価。調査期間は、2018 年 1 月～3 月。
(出所) Medef et al. (2019)

ESG評価の比較

<FTSEとMSCIのESG評価の比較>



(注1) 分析ユニバース(2016/7時点)、FTSE、MSCIが共通して調査対象としている日本企業430社

(注2) 図のプロットは、各評価会社のESG評価の順位(1位～430位)

(出所)GPIF

国際金融都市とESG・SDGs

■ ESG・SDGs金融でも世界を主導

- ・ 世界中の企業・投資家・消費者が、今や避けては通れないコンセプト
- ・ 当分野を主導する金融都市は、都市自体がESG・SDGsに敏感である必要

■ 東京で持続可能性に寄与する企業が、国際的にも高評価を受けられるように

- ・ 「東京で高く評価される企業は、真にESG・SDGsフレンドリー」等
- ・ ディスクロージャーの整備、情報発信

■ 海外からの資金の呼び込み & 基準形成

- ・ 金融の力も動員し、持続可能性への貢献と経済発展の両立を目指す